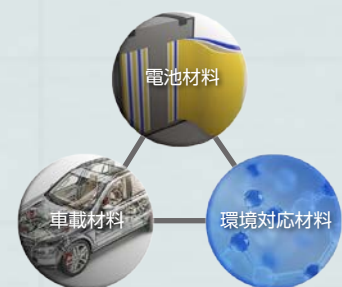


QUESTION

電池材料、車載材料、
環境対応材料の3本立て

環境・エネルギー事業部がめざす5年後への戦略は？

「SMART 2030」において環境・エネルギー事業部が推進する主要な事業は、電池材料、車載材料、環境対応材料の3点に大別されます。



電池材料についてはサステナブル社会実現への貢献をめざし、リチウムイオン二次電池(LiB)と太陽電池の2分野にさまざまな部材を提供していま

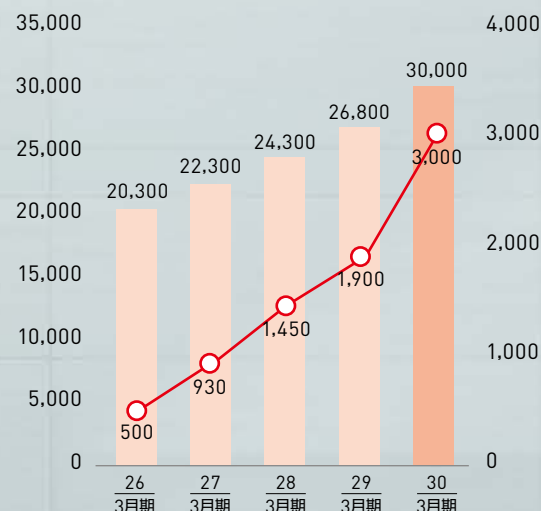
す。とくに高容量LiBの負極用水系複合接着剤(バインダー)「エレクセル®CRシリーズ」は、汎用品ではむずかしいシリコン系負極材料の膨張収縮に対応する性質をもち、長寿命化とさらなる高容量・小型軽量化が期待されるもの。お客さまから高く評価されており、安定供給を図るために滋賀工場の生産能力を増強し、5月から稼働を始めました。さらに生産体制を強化し、事業の中核に成長させることが事業部の使命です。太陽電池向けには、変換効率向上に寄与する高性能導電ペーストをはじめ、エネルギー分野に新たな価値を提供し続け、成長領域の拡大を進めていきます。

車載材料は、電子基板向け封止材などの樹脂材料。車載用の材料には外部因子から基板性能を守ることはもちろん、さまざまな機能を求められます。そのため、内外装用材料も含め、自動車の軽量化、高性能化、安全性向上に役立つ多様な材料を提案。電装部材を中心に海外での伸びが大きく期待されています。

またカーボンニュートラルに向けた取り組みとして、ショ糖、セルロースなど天然由来原料を使った製品の産業用展開、加熱をせず常温で硬化して封止できるウレタン材料なども開発中。脱炭素社会への貢献は当事業部の大きなミッションです。

右肩上がりの成長分野は利益性も急カーブ
コストなど課題は多いですが
将来の需要を見越して開発を加速させていきます

売上高／営業利益推移計画(百万円)



バイオマス化、資源循環
など右肩上がりの
成長領域！

ANSWER

原料と製造プロセスの両面で脱炭素社会に貢献します。

環境・エネルギー事業部がめざす2030年3月期の目標値は、グループ全体で売上高300億円/営業利益30億円。達成するためにはクリアしなければならない課題も多くあります。そのひとつが人材育成。研究部は、応用評価に特化したエレクセル、材料開発を主とする電池材料と機能性樹脂の3つのグループで構成されています。お客さまと同じ目線で評価、ものづくりができることで開発を加速させる体制となっています。今後は営業と研究が相互に、たとえば実務を学ぶなど現場を経験することにも必要かもしれません。研究開発の実際を知ることで、お客さまと話せる内容のレベルが一段上がります。営業一体

のメリットを生かしていきたいと考えています。

事業部の冠である「環境・エネルギー」分野は、右肩上がりで成長していく領域です。電動化・電装化社会は今や資源の循環が必須であり、廃棄からリユース、リサイクルへ、資源を循環して使う方向へどんどんシフトしています。同時に、原料のバイオマス化、非石化対応もさらに進むと予想。糖誘導体やセルロース誘導体の新たな分野への展開、植物由来の界面活性剤など、バイオマス原料製品の開発を加速させます。エネルギー分野においても、再生可能エネルギーの安定供給のために、当社の電池材料に求められる可能性は大きいと考



東崎 哲也

執行役員 事業本部 環境・エネルギー事業部長

えています。

5年後の目標達成へのプロセスが描くのは、右肩上がりの急カーブ。競合他社にない独自の強みを発揮すれば達成可能。ユニ・トップな取り組みで前倒しも実現できるのではないかと考えています。

環境・エネルギー 戦略ロードマップ

